

結婚・子育てに関する若い世代へのヒアリング 実施一覧

※該当の年齢で複数名いる場合あり

	開催日	ヒアリング先	人数	主な属性
1	R6/4/25 @オンライン	・NPO法人（北海道） 家庭環境や経済的に学びの機会を得られない子ども達（小1～高3）を対象に支援。10代～30代のボランティアメンバーとして活動中。	・男：1名	・社会人（起業家）/北海道在住 ・男性：既婚・子あり=35歳
2	R6/5/28 @オンライン	・金融系民間企業（東京都） 全国勤務・地域限定勤務の総合職として勤務している若手社員。人事担当又は会社のリクルーターとして学生と接する機会がある。	・男：1名 ・女：2名	・社会人/東京・神奈川・埼玉在住（北海道出身者含む） ・男性：既婚・子なし=28歳 ・女性：既婚・子なし=28歳/未婚=30歳
3	R6/5/31 @オンライン	・広告系民間企業（東京都） 高校生や大学生を中心に10～20代の若者の実態を調査し、企業等と若者が良い関係を築くための企画・クリエイティブ開発を行う部署に所属。	・男：1名 ・女：2名	・社会人/首都圏在住（千葉・埼玉・福岡出身者含む） ・女性：未婚=25・32歳 既婚・子なし=26歳
4	R6/6/12 @オンライン	・金融系民間企業（大阪府） 地域限定勤務の総合職として勤務している若手社員。会社のリクルーターとして学生と接する機会がある。	・女：3名	・社会人/大阪・兵庫在住（滋賀出身者含む） ・女性：未婚=25・32歳 既婚・子なし=26歳
5	R6/6/17 @オンライン	・教育学科大学生（山梨県） ゼミの活動として、障がいの有無にかかわらず、地域のだれもが安心して楽しく参加できるよう、子ども達の週末の居場所づくり活動を行っている。	・男：1名 ・女：3名	・大学生（3～4年）/（岩手・静岡・茨城出身者含む） ・男性：未婚=22歳 ・女性：未婚=20・21・22歳
6	R6/6/18 @対面	・国家公務員・地方公務員・民間企業・技術職（東京都） ※地方公務員や民間からの出向者など様々なバックグラウンドを持つ、こども家庭庁出向中の若手職員。	・男：4名 ・女：7名	・社会人/関東在住（長野・群馬・茨城・東京・埼玉・愛媛・岡山・長崎出身者含む） ・男性：未婚=26・27・28歳 / 既婚・子なし=33歳 ・女性：未婚=23・26・27・29歳
7	R6/6/24 @オンライン	・医療系民間企業（愛知県・福岡県） ※希望勤務地を、出身地に近い名古屋市・福岡市を選んでいる若手社員。大学院卒が多く、入社2年～5年目。	・女：4名	・社会人/大阪・兵庫在住（滋賀出身者含む） ・女性：未婚=23・28・29歳
8	R6/6/27 @オンライン	・NPO法人で活動する大学生（東京都・愛知県） ※こどもの貧困実態の調査や、直接的支援等の活動を行う大学生。	・女：2名	・社会人/首都圏在住（愛知県出身者含む） ・女性：未婚=19・23歳
9	R6/6/27 @オンライン	・公務員・社協・農家（沖縄県） ※それぞれの職種で、村を支える若手メンバー。	・男：3名 ・女：3名	・社会人/沖縄在住 ・男性：未婚=31・32歳 ・女性：未婚=23・29・32歳

結婚・子育てに関する若い世代へのヒアリングコメント(1/10)

●若者の恋愛に対する意識

- 学生時代と比べ、社会人になると恋愛から遠のき、興味がなくなっている人が多い。社会人3年目なので、仕事を優先したい時期でもある。
- うまいかなくなってしまう時に関係性が壊れるリスクを考えて、恋愛するより今のコミュニティを大事にするため、あえて「付き合う」という形を取ることを選ばない。
- 中高生の間では、「付き合わなくても会える」という気楽な関係も増えており、お互い好意があってもわざわざ「付き合う」という契約をしなくてもいいと思ってしまう。
- 大学内の友人や幼馴染同士、マッチングアプリやアルバイト先など、様々な出会い方がある。
- 周囲を見ると、合コンやアプリより、個人的な繋がりでの知り合い、会っている印象がある。
- 合コンには参加したことはないが、サッカーなど趣味で繋がった友人に誘われたときは積極的に参加している。
- 職場関係の出会いが多いが、最近はマッチングアプリで出会った人との結婚も増えてきたと思う。
- 恋愛の先に結婚があると思っている。

●交際相手・結婚相手の選び方の傾向

- 結婚の条件について男女で異なる。地方では、男性からは「相手との価値観や性格が合う・合わない」、女性からは「年齢・収入・職業」がよく出てくる。
- 女性は、相手の職業が自営業か企業か公務員なのか、「生活の安定」のために気にしているようだ。地方では、自営業はあまり好まれない印象がある。
- 女性は妊娠・出産を考えると、自分の収入が一時的に減るため、内面重視とは言いつつも、相手の収入は気になるポイントである。
- 自分（女性）としては、相手の収入に強いこだわりはないが、一方、同年代男性なのに私よりあまりに収入が少ないと、この人大丈夫なのか？と不安になり、積極的に選ぶとは感じない。
- 自分（女性）はマッチングアプリで、「年齢」「収入（自分と同等かそれ以上）」「土日祝休みの人」「転勤がない」「得意な家事があるひと（一人暮らしの経験がある人）」を条件にしている。
- 東京だと、家賃含めて物価が高いので、専業主婦だと収入が厳しい。男性も相手の収入を気にしている人はいる。高望みはしないが女性にも働いてほしい。

●若者の結婚・子育てに対する意識

- 付き合うなら結婚前提が良い。
- 結婚を大前提として考えていない。「恋愛～結婚～子育て」を繋げて考えている人は少ないと思う。
- 大学生・社会人になると“自分は結婚するガウではない”、と思うようになった。結婚している様子が想像できない、今は結婚願望はない。
- お金がないことへの不安ではなく、「よく分からない」ものへの漠然とした不安がある。周囲に聞いても、選択肢の幅が広くてイメージできない。
- 昔は社会規範として「結婚して一人前」等の圧により不本意結婚した人が一定数いたと思うが、それが多様性が認められ、本人の自由意思が尊重される時代になった。外圧が緩くなっただけで、昔も今も結婚に対する人の意識は、根本的には変わらないのでは。
- 社会的養護で育ったような環境のこども達は家族に対して良いイメージを持っておらず、成長して 将来を考える時、絶対に家族はいらないと考えている人もいる一方で、だからこそ「自分は絶対に良い相手を見つけたい」という人もおり、意見が二極化しているように感じる。
- 結婚のハードルの1つとして、結婚時にやるが多すぎる。制度的にも手続きが多く、両家の顔合わせなど負担感を感じる。
- 職業が農業で、給料が安定していないため、経済的な不安がある。結婚となると、相手に経済的な理由で迷惑をかけるのではと踏み出せない。
- 結婚へのハードルは、「相手と出会う」ことだと思う。
- 結婚におけるメリットとは何だろうと思っている。
- 結婚のメリットがあるとすれば、家事分担、精神的につらい時に支えてもらえること、経済的な負担軽減、社会的信用が得られやすいということ。
- 今まで一人であることも良いと思っていたが、老後の経済的な不安・精神的な安定からもパートナーがいた方が良いと思いはじめている。
- 結婚に何を求めるかによるが、自分は「誰かと一緒にいる」ことを大事にしているので、それが同性でも異性でもよく、少子化対策をするには「結婚で得られる何か」を示さないといけないのではと思う。
- 人生1回は結婚したいと考えており、“次の誕生日までに相手を探す”と目標を決めてアプリで婚活している人もいる。
- 結婚を目的に行動している人は少ないが、周囲の影響は受けやすいため、先輩の家でこどもと触れあうと、こどもっていいな（家庭を持つのも悪くない）と思う。
- 両親が仲が良かったことは影響している。小学校の時に妹が生まれて、お母さんになりたいと思い、結婚への憧れができた。

結婚・子育てに関する若い世代へのヒアリングコメント(3/10)

- 小学校の時から、お嫁さんになりたい夢があり、結婚願望を持っている。
- 学生時代の教育実習や、留守家庭児童会（いわゆる学童）でのアルバイトでこどもと接した経験は、家族を持ちたいという考え方に影響している。
- 今は結婚するイメージはわからないが、ゆくゆくは家庭を持てたら良いと思う。結婚する年齢としては、30歳ぐらいで結婚したい。
- 学生時代は30歳頃には結婚しているだろうと思っていたが、実際に30歳を超え、結婚していない状態にある。
- 大学院に進学した時点で、将来のキャリアの視点から、経験が浅いうちに仕事を離れると今後のキャリアに影響があると考え、20代での結婚は難しいと感じるようになった。大学院に進んだ時点で後ずらしになってしまっている。
- 社会人になり、色んな人の話を聞くと、「20代はいろいろ経験して、それから結婚した方が良い」と聞くこともあり、結婚が早くなくてもいいと考えが変わった。
- 30歳を超えても初産の方がいると聞くと、そんなに急がなくても良いのかなとも思う。
- 今、25歳だが、30歳ぐらいでできればと結婚の時期を先延ばしした。周囲では20代前半での結婚は多い方だとは思う。若い年齢と晩婚の二極化しているイメージがある。
- 周りが結婚していなくて現実味を感じていなかった。社会人3～4年目に周囲が結婚し始めるようになり、結婚を意識し始めた。
- 相手がいる人は結婚までスムーズにいくことが多いと思う。こどもをもつとなると、ハードルがある。
- 子育てするのは経済的負担や責任が伴うと言われていることから、無理してまで結婚する意味がないと考えている人が多いと思う。
- 結婚後の生活や子育てのことを考えると、好きになる時点・付き合う前の段階から、様々な不安から交際へ踏み込めない人もいる。
- 親になることはライフステージが次へ進むということ。こどもを持ちたいと思ってる人にとっては良いことだと思う。
- こどもを持つことについて、負担の方が大きいことには変わらないが、人を育てることでの学びや成長があると思う。大変だけど産んでよかったと言うお母さんが多いので、気持ち的な充足が得られるのではないかな。
- 出産・育児の経済的な補助があれば、ポジティブになるのではないかな。

結婚・子育てに関する若い世代へのヒアリングコメント(4/10)

- 相手（男性側）の職場環境、家事・育児のサポート環境も気にしている。
- 正直、金銭面の不安や生きづらい社会と感じる中で、こどもを作って何がメリットになるかわからない。
- こどもを育てるにもお金がかかるため、相手（女性）にも仕事ができるなら仕事をして欲しいと思う。
- 奨学金を返済中であり、産休に入ると支払いができるかなど経済的な不安がある。相手の収入が高ければ良いが、低いと経済的に不安である。
- 結婚相手も親もこどもが欲しいと思っている為、一人は持ちたいと思っているが、自分自身はこどもは欲しくない。こどもを持つ時期としては、30歳前後を考えている。
- こども好きで「家庭を持ちたい」という気持ちがあり、こどもを持つことの憧れもあるが、今の世の中でこどもを産むことへの不安がある。
- “自分のこどもには大学を出て、しっかり働ける社会人になってもらいたい”と思う親が増えてきているのではないかと。学費・教育資金を考えると、経済的な不安により、複数人こども持ちにくくなっていると思う。そこが少子化につながっているのではないかと。
- 本当はこどもが3人欲しいが、現実的には1人しか望めないかもしれない、と思う人達が前向きになれるサポートがあるといいと思う。
- 自分自身は「男性育児は当たり前」との考えで育児をしているのに、周囲が「父親は家事をしない」というイメージを強くもっているため、「男性も家事しなさい」と言われる。古いイメージに捉われた声掛けに違和感を感じる。
- 周囲でも3人欲しいと言っている人はあまり聞かない。
- 自分が持ちたいこどもの人数は、自分のきょうだい構成が影響している。
- 親の介護を考えると、どうしても介護は女性側がみることが多い。きょうだいが多い方が、親の介護や家族の問題もみんなで支えあっていけると思う。
- きょうだい同士で困ったことがあったら集まって助け合っている、親の姿を見ている。
- こどもが多いと、満足させられるような経済状況が保てるかと不安にも思う。

●結婚の早期化

- 北海道の友人は明らかに早婚だが、東京はそうでもない。地域差があると思う。
- 茨城など、地元にいる人は結婚が早い。高卒で就職し、収入があるので結婚も早いのではないか。
- 学生の時に付き合っていたと結婚してもいいと思っていたが、学生結婚のハードルは高い。自分で稼いでもいない時期に結婚することは世間体を考えるとハードルが高く感じた。

●地域別の結婚観について

- 隣県や近くのエリアでの出会いもあるが、距離が遠いと、中間地点で会い、結婚に伴ってどちらかに引っ越すケースがある。
- 転勤を避けるために県内での出会いを求める人も多い。
- 大学時代に住んでいた鳥取県では、結婚を見越して、男女共に関西圏で就職先を探している人が多かった。
- 地元では結婚を機に長崎を離れ、福岡や熊本へ行ってしまふことが多い。九州の中でも、都市部に人が流れる傾向。
- 結婚している女性は少ないが、結婚している人は、こどもが3人など多い印象がある。

●企業の福利厚生としての結婚支援

- マッチングアプリは女性は基本的に無料なので、福利厚生として割引があっても、あまりメリットを感じない。
- 福利厚生は必要な人が必要なものを選ぶものなので、福利厚生に婚活サービスがあっても良いと思う。押し付けとは捉えられないのでは。

● マッチングアプリに対する印象・意識

- ここ数年でマッチングアプリが一般的になり、利用者が増えたイメージがある。
- マッチングアプリは浸透しており、メリットを感じている友人は頻繁に使っている。
- 昔はネットや婚活アプリで出会って付き合うことに抵抗があったり良い印象がなかったが、今はだいぶ薄れてきて、友人同士でアプリについて話をすることもある。
- 上司や親戚にもアプリで出会ったことを公言して結婚した友人もいて、抵抗感がなくなってきたことを実感している。
- マッチングアプリの利用は学生の時の方が多く、社会人になると減った印象。
- 条件が良くマッチングしても、会ってみたら会話が続かない、コミュニケーションが上手く取れない人が多い印象がある。
- マッチングアプリには良いイメージがない。体目的の話も友人から聞くので危険なイメージもあり、仮面をかぶり自分を良く見せようとするイメージもある。
- 友人と一緒にマッチングアプリを使ってみたが怖くなり、会うところまでの利用にならなかった。マッチングアプリの出会いより、知人の紹介の方が安心感があると思う。
- マッチングアプリを使っているけど、マッチした後に本当に自分に合う人を見付けるには手間がかかるので、フェードアウトしている人もいると聞く。
- 福岡は女性が多く男性が少ないとよく言われている。名古屋は男性が多く、男性はマッチングしにくいと聞いたことがある。
- 中心部から離れたところに住んでいるため、マッチングアプリで出会った人に居住地を明かすと、連絡が途絶える場合もある。

●行政の婚活サービスへの印象

- 行政の婚活サービスについてあまり必要性は感じないが、よく分からないアプリを使うよりは安心感はある。
- 今の若者は自分が欲しい情報しか取りにいかず、偶発的な出会いを求めていると思うので、自治体からの結婚支援サービスの情報であっても、出会いのきっかけとなる情報は、ニーズがあると思う。
- 民間より自治体の婚活サービスの方が、出会いや結婚に本気の人に来ていそうなイメージ。
- 認知度Upのためには、お見合い数・交際数などが実績として見える化されていると、安心感があると思う。
- 「OITAえんむす部」のHPを拝見し、凄く良いなと思った。支援員さんが間に入ってくれている安心感がある。
- 行政サービスとしては、出会った後のサポートを手厚くするべき。結婚後の社会制度や支援制度の情報を提供することで、結婚への不安感を取り除ける。
- 行政発のサービスの信頼性は高いが、行政から積極広報されると唐突感があったり、お堅い印象・プレッシャー・近づきがたい印象を受けてしまう。
- 県内の街コンもあるが、成婚例を身近で聞いたことがない。
- 自治体の婚活サービスで結婚した友人が実際にいれば、使ってみようかなと思うかもしれない。
- 電車の広告にあったら「こんなのあるんだ！」と気になると思う。普段目にする生活導線に情報があると、ニュートラルに知るきっかけになる。
- 一般人に届けるためには、なるべく寄り添う・身近さ・手軽さが大事と考える。(手続きの煩雑さが無いという手軽感、寄り添ってくれる身近さ等)

結婚・子育てに関する若い世代へのヒアリングコメント(8/10)

●ライフデザイン

- 振り返ると、もっと前から自分の人生を考える機会があったり、社会人の話や結婚している人の話が聞けたらよかったと思う。
- もっと早くから結婚や子育てについて聞きたかったと、今思う。
- 学生時代にキャリア教育やマネー教育はあるのに、なぜ、ライフプランについて学ぶ機会がなかったのかと疑問に思った。
- 大学時代に“キャリアプラン”は聞いたことがあるが、仕事も結婚も統合してのライフデザインを考えることは学生時代にはなく、知る機会があれば嬉しい。
- 女性は妊娠出産があって将来を考えている人が多い気がする。FPに相談することはあるが、最初のハードルが高いので、もっと気楽に聞けるといいなと思う。
- 中3の時に、授業で考えるきっかけはあったが、その時は結婚をイメージできていなかった。
- 中高生くらいからライフプランを考える機会を教育の中にどんどん盛り込んでいったらよいと思う。
- ライフプランを学ぶには、自分自身のことを理解し始めて将来について考え始める高校生くらいが、学びが多くて良いと思う。
- 大学の総合の授業などで、自分の人生について考えようというプログラムはあった。
- 4年制大学は漫然と進学する人が多いが、普通科ではない大学に進学する人は将来を考えていると思う。

●ロールモデルや実例ケース

- 東早慶・MARCH・関関同立の学生200名への調査によると、理想の夫婦像は、両親や身近なインフルエンサーくらい。もっと身近なロールモデルが欲しい。
- 社内には女性社員も多く、ちょっとした不安でもすぐに先輩ママに聞けるのはとてもありがたいシステムだと思う。
- いろいろなロールモデルがあれば、「こういう選択肢もあるんだ」とか、「この人はこのように乗り越えたんだ」と参考となるが、それを自分が目指すかという点必ずしもそうではない。
- ロールモデルと自分では置かれた環境が違うので、参考にはなると思うが、絶対に必要とは思わない。
- 早い年齢で結婚した人たちからは「家族も子どももいて楽しいけれど、少ない給料で育てないといけない」と聞くこともあり、経済的な不安を抱いている。自分自身は、もう少し自分の資産を増やしてから結婚したいと思うようになった。

●若者への広報・啓発

- 結婚に前向きになるためには、「恋愛っていいよね」「結婚って幸せだよね」「これだったら私たち結婚できるね」とプランを描ける、20代で結婚したいと思えるコンテンツの配信が有効。
- 情報としてSNSを使うのであればLINEの方が良い。自分から自治体のXやインスタはフォローしない。
- 主な情報源は、LINEニュース、TikTok、ヤフーニュース、インスタのストーリーで、社会の様子を知る。SNSの情報が多い。
- 若者に情報を届ける場合は 媒体ではなく、何をどれだけアプローチするかが大事に思う。一元化して情報を大きくする（検索すると一番上位に掲載される等）と、触れる機会が増えるのではないかな。
- 実際に利用した人の経験談が聞けたら興味を持てる/友人からの評価があった方が信憑性を感じ、自分もやってみようと思う/近い人からの口コミが大事。若者の身近にあるSNSなどの情報だと、ハードルが下がると思う。
- 同じ若い世代からの発信だと、アンチが減る。「サークルや活動団体の取組を国が応援」の建付けであれば、純粋な活動と捉えられてアンチが少なく広がりやすい。
- 知人からの方が、良い面も悪い面も知れる。自治体から直接情報を届けられるよりは、人からの情報を信頼すると思う。
- 国や自治体の発信と最初にわかると、古臭い・お堅いという先入観により自分事化できない。
- 出所がわからないけれど、とても面白いコンテンツが、実はPresented by 行政だった、だと興味がわく。
- Xで「堅いイメージの企業の公式アカウントで面白いことを発信している」という内容がバズっていたことがあって、それは良い印象。
- 政策となると大事なことではあるが、若者には関わりにくい。気軽にわかりやすくポップな形で情報が知れると良い。
- 「国」と聞くと、遠くて手の届かないところにあるイメージが若者にはある。こども家庭庁のアカウントから、人間味を感じられる発信であれば、目にする人が多くなるのではないかな。

●職場で求めること/不安なこと

- 会社の特徴として、年度によってプロジェクトの量に波があるため、復職時に、自分にアサインされる仕事があるかは不安がある。
- 教職員の仕事は拘束時間が長いため、家庭をもつことをイメージできず、結婚することを躊躇してしまう。
- 女性だけが働きやすい職場で働いていても、男性側も働きやすい会社でないと、結局女性側にしわ寄せがいき、子育てとの両立が難しい。

●その他、行政に求めること

- 結婚後の、もめ事・心配事に対し、相談・解決まで寄り添ってくれる人がいてくれたらよいと思う。結婚・子育てに対する不安を軽く思えるような支援があると良い。
- 「結婚・出産は喜ばしいこと、周囲も嬉しく感じる、こども達もきっと喜んでくれるよ」と言ってもらったことがある。周囲が祝福・応援してくれていることを聞くと、結婚やこどもを持つことに前向きになれると思う。
- こどもの人数ではなく、産まれた時点で誰でも等しく支援や手当があると良い。
- 子育て支援についての情報を早めに知れた方が、正しい判断ができると思う。
- 出産・子育てにかかる費用や、それに対する助成などの経済的な支援内容について知りたい。
- 少子化対策を考えるのであれば、結婚を阻む色々な弊害に目を向けると、意味ある政策になると思う。
- 友人の中には、こどもが欲しいと思うものの、親としての責任や経済的負担を考えると、結婚するがこどもはいらないと考えている人もいる。
- 大分県などの事例にあった「相手と出会える」支援の情報は、とても良いと思う。
- “保育料無料”の仕組みは、村や町ごとではなく、全地域で取り組めたら子育てもしやすくなると思う。